VISION 展望2026

モーター、付加価値向上

細田 修吾氏

荏原社長

―2月に2026年度からの新中期経営計画を公表する予定です。

「25年度の業績は過去最高を見込んでいる。半導体事業などで将来に向けた投資を実施することで、新中計や、その先を見据えた長期ビジョンに向けた足場固めとして積極的な事業展開ができた。新中計では半導体関連を最優先に投資する。需要が拡大してから投資を実施しても遅いため、将来に向けた増産投資や研究開発に投じる方針だ」

―精密・電子や建築・産業で25年度の受注高を下方修正していますが、長期的な見通しは。

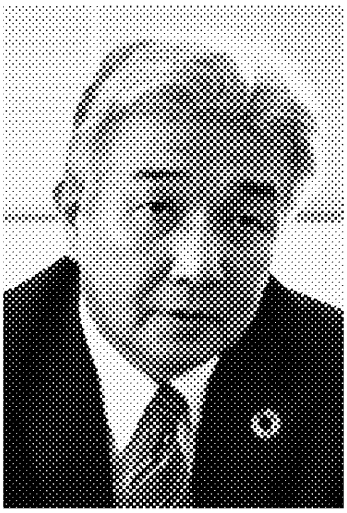
「期初の見込みを比較的アグレッシブ（積極的）にしていたことなどから下方修正したが、両事業ともに長期的には確実に伸びることは間違いない。精密・電子では半導体関連が生成AI（人工知能）向けなどで、建築・産業は世界全体のGDP（国内総生産）の成長とともに伸びると見込んでいる」

―三菱電機から三相モーターや内部永久磁石（IPM）モーターの事業などを取得しました。

「産業機械に不可欠な重要コンポーネントであるモーターに関する生産設備などの資産や設計・開発力、技術ノウハウを取得し、グローバル市場での成長を加速させる。モーターと産業機器の統合を推進し、製品提供に加えて、省エネルギーや予知保全などの高付加価値サービスを展開する。取得する事業の資産と技術を守りつつ、生産性を一層高めるために必要な投資を行い、シナジーの創出を目指す」

―AI（人工知能）を活用した事業の効率化などは進めますか。

「生成AIを活用したプラットフォーム（基盤）「エバラAIチャット」を独自開発し、社内に導入している。当社が持つ技術情報、社内の情報と生成AIモデルを組み合わせ、作業負担の軽減や業務効率の向上などを図っており、導入から約1年間で75万回程度使われている。多数の社員が利用することで着実に時間削減などの効果が出ている」



記者の目

新中計、具体的施策に期待

新中計では事業ごとにありたい姿の実現に向けた施策を具体化する。3本柱の『建築・産業』『エネルギー』『精密・電子』の3カンパニーを中心に、利益率向上などの質的な面の強化が重要となる。「グローバル・エクセレント・カンパニーとして、持続可能な社会の実現に欠かせない企業となる」（細田社長）ための各種施策に期待したい。

（松井美濃生）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社